

平成 26 年度
第 12 回

全国環境連全国大会

「世界に誇る浄化槽 未来へ残そう美しい自然」

2014.10.10 〈Fri〉

ホテル東日本宇都宮

栃木県宇都宮市上大曾町492-1
TEL 028-643-5555

- 主催／全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会
- 後援／環境省・栃木県・宇都宮市・栃木県市長会・栃木県町村会
- 協賛／公益財団法人日本環境整備教育センター
一般社団法人全国浄化槽団体連合会・全国浄化槽推進市町村協議会
栃木県浄化槽推進協議会・一般社団法人栃木県浄化槽協会
- 担当／全国環境連関東中部ブロック協議会（栃木県環境整備事業協同組合）

第12回全国環境連全国大会の開催にあたって

本日、ここに第12回全国環境連全国大会を、『下野の地』栃木県で開催できますことを心から感謝申し上げますとともに、環境省をはじめ、国会議員の先生方、栃木県、宇都宮市ならびに県内各市町より行政、議会、業界団体、業界関係者など多数の方々のご臨席を頂き盛大に開催できますことに、心より厚く御礼申し上げます。

また、2011年3月11日に発生しました東日本大震災からの復興に際しましては、栃木県におきましても大変なご心配やご迷惑をお掛け致しましたが、全国各地より皆様方の絶大なるご支援とご協力を賜りましたことを、この場をお借りして重ねて御礼申し上げます。

さて、我が国におきましては2020年夏季オリンピック及びパラリンピック東京開催決定により、6年後の招致に向けたインフラ整備需要の拡大による経済効果への期待がもたれているとともに、今後は安倍政権によるアベノミクス経済政策が本格化し、対策の柱である三本の矢による更なる景気回復への見通しなど、明るい話題に国民の大きな関心が寄せられているところであります。しかしながら、多くの業界関係者を取り巻く地方の状況は、加速する少子高齢化にともなう人口減少や自治体の厳しい財政状況など景気回復の兆候はみられず、依然として厳しい状態におかれたまま、まだまだ予断を許さない状況にあるといえます。

さらには、廃棄物処理・汚水処理に深く携わる我々の業界がおかれている現状は、低迷する地方の社会経済情勢に加え、いまだ継続する過剰な下水道整備事業の進捗による業務縮小に迫られ、今後ますます厳しい経営環境にさらされていくものと思われまます。そのため我々は合特法の趣旨を踏まえた業務転換に備え、適正業務の安定継続に尽力し、経営基盤の強化や技術知識の習得、後継人材の育成に努め、地域社会の環境保全に貢献してまいります。また、かつてない人口減少により逼迫する行政の財政難に直面するにあたり、既成概念にとらわれない汚水処理計画の見直しは必須であると思われまます。今後も日本各地で起こりうる大震災の発生を見据えれば、耐震性に乏しく復旧が長期化し財政負担の大きいインフラ整備は見直されるべきであり、我々は災害に強く経済性にも優れ、下水道と同等の性能を有する浄化槽の面的整備を推進し、地域特性に応じた持続可能な効率的汚水処理の実現を目指し邁進していく所存です。

これからも私たちは自治事務の代行者として、法令遵守のもと業界に課せられた社会的責任を全うし、適切な廃棄物処理・汚水処理を通じて地域の水環境の保全及び公衆衛生の向上に寄与するとともに、組合員一同さらなる団結を以って廃棄物行政への一層の協力を図ってまいります。

最後に本大会の開催にあたりご尽力頂きました皆様への感謝を申し上げますとともに、ご臨席を賜りました皆様方への心からの感謝と更なるご支援、ご指導をお願い申し上げご挨拶と致します。

全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会
会長 鳥越 澄夫
栃木県環境整備事業協同組合
理事長 菊地 豊樹

成長戦略を担う全国環境連



環境整備議員連盟会長

衆議院議員 河村 建夫

美しい自然に囲まれ、良質な水環境に恵まれた宇都宮市で全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会の第12回全国大会が盛大に開催されますことを心からお慶び申し上げますと共に、鳥越澄夫会長をはじめ全国環境連に結集する皆様方の日頃の献身的活動に深甚なる敬意を表します。

平成20年に北海道洞爺湖サミットを契機として時の福田内閣が温室効果ガス（CO₂）削減を目指し、その先導役たる「環境モデル都市」を選定し、東日本大震災後には被災地復興のため「環境未来都市」制度が導入されましたが、この宇都宮の全国環境連全国大会を足掛かりに、わが国の環境衛生向上に資する新たなシステムを官民提携して誕生させることを切望し、期待致します。

わが自民党が政権を奪還し、自民、公明連立の第2次安倍政権が発足して1年半余り、最重要の目標に掲げたアベノミクス（経済再生策）は長州藩祖・毛利元就の3本の矢になぞらえられましたが、第1の矢・大胆な金融政策、第2の矢・機動的財政政策はことごとく凶に当たり、その成否のカギは第3の矢・成長戦略にかかっております。

アベノミクス発足直後、第3の矢が世界を股にかけ、グローバル経済圏で戦う大企業に大きく比重をかけて地域経済を軽視し、中小企業に恩恵が及ばない、との批判があったことは事実です。安倍政権はそれを反省し、先月には安倍首相自ら本部長を務める「まち・ひと・しごと創生本部」を発足させて地方活性化の司令塔と位置付け、地方創生担当相を新設したのです。来年度予算案では成長分野や人口減対策に重点配分する4兆円の特別枠のうち、1兆円が地方創生に振り向けられるはずですが、今夏、新たに決定した成長戦略をローカル・アベノミクスと名付けたのもむべなるかなと言わねばなりません。

東西統一後、「欧州の病人」とまで呼ばれたドイツが、中小企業を牽引役として見事に経済復興を為し遂げたことはよく知られていますが、わが国でもかつて世界の“牽引車”といわれる高度経済成長を達成した、その“陰のチャンピオン”は中小企業でした。

治山・治水は国土を治める根本理念です。今夏も度重なる台風襲来、局地的豪雨によって日本列島各地に甚大な被害が発生しましたが、そうした際、地域住民の方々の安心・安全な生活を一日でも早く取り戻すため尽力し、力を発揮するのは全国環境連の皆様です。地震や災害には浄化槽の方が下水道より強いことはよく知られています。とりわけ昨今は高度経済成長期に整備した下水道管が耐用年数を超えて老朽化し、バス、トラックなどの道路での陥没事故の原因となっております。まさに浄化槽業界の出番です。

皆様方が英知を結集し、未来の美しく、強靱な社会づくりに貢献するべく、今後、一層奮闘されるよう念願致しますと共に、微力ながら皆様と共に頑張り抜く決意です。

祝 辞



環境省大臣官房

廃棄物・リサイクル対策部長 鎌形浩史

全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会第12回全国大会が、栃木県宇都宮市におきまして盛大に開催されますことを心よりお慶び申し上げます。

貴連合会の皆様方が、一般廃棄物の処理、浄化槽の清掃など、日頃より生活環境の保全のために御尽力されていることに対し、深く敬意を表するとともに、廃棄物・リサイクル行政の推進に格段のご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

また、東日本大震災発生の際には、バキュームカーやごみ収集運搬車等を無償で提供されるなど多大なるご支援を賜り、感謝の念に堪えません。

さて、本大会は、「世界に誇る浄化槽 未来へ残そう美しい自然」をテーマとして3R活動を積極的に推進し、循環型社会づくりを目指すものであり、誠に意義深いものと考えます。

今日、地球環境の限界が顕在化する中で、大量生産、大量消費、大量廃棄型の社会から脱却して「循環型社会」の形成を推進していくことが、我が国の最重要課題の一つとなっています。

こうした中、昨年5月31日に、循環型社会形成推進基本法に基づき、循環型社会の形成に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るために定められる第三次循環型社会形成推進基本計画が策定され、質にも着目した循環型社会の形成として、「低炭素・自然共生社会との統合的取組と地域循環圏の高度化」、「東日本大震災の反省点を踏まえた新たな震災廃棄物対策指針の策定」などが新たに盛り込まれました。また、同日に「廃棄物処理施設整備計画」も閣議決定され、今後、政府としては、これらの新たな計画に基づき、循環型社会の構築に向けた更なる取組を進めていくこととなります。

そのような中、浄化槽は、発生源で汚水を処理・排出することから、地域の水環境保全にも貢献するとともに短期間で比較的安価に設置できるため、汚水処理サービスの享受や水質改善効果の発現が早いことが大きな利点となっています。平成25年度末における汚水処理人口普及率は88.9%ですが、人口5万人未満の地域では76%と低い水準となっています。今後、汚水処理施設の整備はこのような人口分散地が中心となってまいります。環境保全効果はもとより経済性にも優れている浄化槽の役割はますます大きくなっていくものと認識しています。

地域の水循環を確保し、公共用水域の水質保全を図ることで生活環境の保全に寄与するため、浄化槽の整備に向けて一層の推進を図ってまいりますので、関係各位の更なる御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会の今後益々の御発展と会員の皆様方の御健勝を祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

祝 辞



栃木県知事 福田 富一

本日ここに、第12回全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会全国大会が盛大に開催されますことをお喜び申し上げますとともに、本大会が栃木県で開催されますことを心から歓迎申し上げます。

全国環境連の皆様には、日頃から、一般廃棄物の適正処理や浄化槽の維持管理など、生活環境保全の担い手として、環境衛生の向上に多大な御貢献をいただいておりますことに深く敬意を表します。

本県は、関東地方最大の面積を有し、県央、県南部に広がる平野、県内さらには関東地方を潤す那珂川、鬼怒川、渡良瀬川をはじめとする河川など、私たちの暮らしや産業活動の基盤となる土地や水資源に恵まれており、工業、農林業など多様な産業がバランスよく発展しております。また、日光・那須連山などの雄大な山々がそびえ、四季折々の美しい表情を見せております。

このような栃木県を守り、次の世代へ引き継いでいくため、本県では、県政の基本指針である「新とちぎ元気プラン」を策定し、「元気度日本一栃木県」を目指して、様々な施策を推進しております。

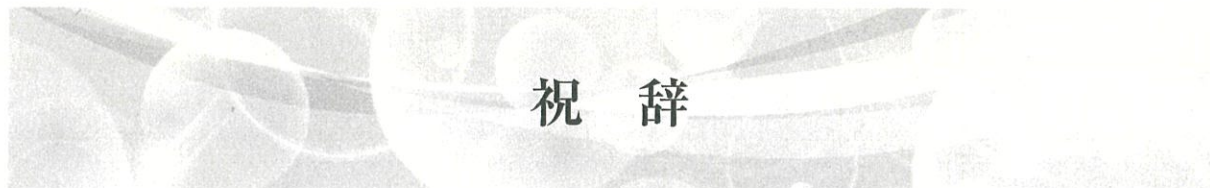
特に環境の面においては、「未来につなぐ環境戦略」を重点戦略の一つとして位置づけ、「栃木県環境基本計画」や「栃木県廃棄物処理計画」などの各種計画とも連携し、3Rの推進などの施策を進めているところです。

また、本県では良好な水環境を保全するため、「新栃木県生活排水処理構想～とちぎの清らかな水2010プラン～」を策定し、公共下水道、農業集落排水施設、浄化槽等の生活排水処理施設の効率的かつ計画的な整備を進めております。この構想においては、地域の実情に応じた最適な整備手法を選択するという観点から、浄化槽による個別処理の割合を12.5%から17.5%に増加させることを目標としております。

浄化槽は災害に強いということも相まって、その使命はますます重要なものとなっておりますが、適正な維持管理が行われて初めて本来の機能が発揮されますことから、豊かな環境を保全していくためにも、全国環境連の皆様をはじめとする関係者の御協力が必要不可欠です。

本県としても、この美しい環境を守り、次の世代へ引き継いでいけるよう、全力で取り組んで参りたいと考えておりますので、今後とも、皆様のより一層の御理解と御協力をお願い申し上げます。

結びに、本大会の開催に御尽力を賜りました関係者の皆様に感謝申し上げますとともに、全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会のさらなる御発展と、会員の皆様の御健勝、御活躍を祈念申し上げます。お祝いの言葉とさせていただきます。



宇都宮市長 佐藤 栄一

第12回全国環境連全国大会が、盛大に開催されますことをお喜び申し上げますとともに、全国各地から宇都宮市にお越しいただき、市民を代表いたしまして心から歓迎申し上げます。

また、全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会会員の皆様におかれましては、日頃から一般廃棄物の適正処理や浄化槽の維持管理などを通じて、生活環境の保全及び公衆衛生の向上に多大な御貢献をいただいておりますことに深く敬意を表します。

私たちのまち宇都宮市は、遠く日光連山を望み、清らかな鬼怒川の流れや緑豊かな丘陵地、田園の緑に象徴される豊かな自然の恵みを受け、二荒の森を中心に栄えてきました。この恵み豊かな地域の環境を将来にわたって守り、育み、引き継いでいくことは我々の大きな責務であります。

こうしたことから、本市においては、宇都宮市環境基本条例に掲げる「環境都市うつのみや」の実現に向け、人やものを大切にする「もったいない」の精神のもと、地球温暖化対策の推進や環境学習の充実、3Rの推進など「脱温暖化・循環型の環境にやさしい持続可能な社会」の形成に資する各種施策・事業を、市民や事業者と一体となって積極的に進めているところであります。

また、平成23年9月に「生活排水処理基本計画」を策定し、良好な水環境を確保するとともに、市民が「快適に暮らせるまち」の実現を目指し、平成37年度までに市全体の生活排水処理率を96.1%まで向上させることを目標に生活排水対策を進めております。特に、浄化槽の整備につきましては、公共下水道等の未整備地域における、良好な水循環の確保と、豊かな自然環境を守るため、平成32年度までに、整備率100%を設置目標に定め、これまでも浄化槽の設置を積極的に推進してきたところであります。

浄化槽は、東日本大震災における被害も少なく、災害に強い安全・安心な施設として再認識されるとともに、下水道と同等の処理能力を備えつつ効率的な設備として注目されており、より重要な役割を果たすことが期待されておりますことから、引き続き、浄化槽関連の各種団体にも御尽力をいただきながら、さらなる浄化槽の設置促進に向けて、取り組んでまいります。

さて、本市では、市のマスコットキャラクター「ミヤリー」による全国への情報発信など、広く宇都宮の魅力を伝える取組や、宇都宮を好きになってもらえるような参加・体験型の取組など、独自の都市ブランド戦略を展開しております。

宇都宮といえば、「餃子」の年間消費量日本一のまちとして全国的にも有名ですが、他にも、「カクテル」「ジャズ」などの地域ブランドを育てながら、都市の魅力向上に積極的に取り組んでおり、その1つである「ひとや環境にやさしい自転車を活用したまちづくり」の一環として、今年で23回目を迎える「2014ジャパンカップサイクルロードレース」が、10月17日から3日間にわたり開催されます。

この大会は国内で唯一、アジア最高位の自転車ワンデーロードレースとして、「ツール・ド・フランス」のスター選手が来日するなど、日本中の自転車ファンが注目するレースですので、是非御覧になっていただければと思います。

結びに、今後とも本市の環境行政への御協力をお願いいたしますとともに、全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会のますますの御発展を祈念いたしまして挨拶いたします。

全国環境連第12回大会を祝して



公益財団法人 日本環境整備教育センター
理事長 廣 瀬 省

全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会第12回全国大会が、「世界に誇る浄化槽 未来へ残そう美しい自然」をテーマに、このように盛大に開催されますことを心からお祝い申し上げますとともに、貴連合会会員の皆様が、全国の一般廃棄物の適正処理と循環型社会の実現を目指し、わが国の良質な水環境の確保と公衆衛生の向上に大きく貢献しておられますことに対し、深く敬意を表する次第です。

また、私ども日本環境整備教育センターの事業推進に対し、常日頃より格別なるご協力を賜っておりますことに厚く御礼申し上げます。

さて、今や人口減少、高齢化さらには社会資本インフラの老朽化という社会情勢が、様々な分野に影響を及ぼしていることはご周知のことと思います。

将来の汚水処理施設整備計画を描く際、把握しておかなければならないのが人口動態であり、すでにわが国では5年前の2009年をピークに人口減少に転じ、2040年には推計人口107,278万人となり現在の84%程度までに減少する予測がされ、このままいけば30年後には人口の「再生産力」が急激に減少し、2040年には、現在1,800ある自治体の約半数の896の自治体が消滅する恐れがあるというシミュレーションが発表されています。地方ではすでに少子化と同時に高齢者人口の減少も始まっており、多くの地方都市では大都市に比べ30年から50年も早く人口減少や高齢化が進行していると指摘されています。

また、3月下旬には国土交通省から36年後の2050年には急激な人口減少により、現在よりも無人地域が2割近く広がり国土の約6割が無人となる試算が公表され、今後の国土整備の基本方針を示す「国土のグランドデザイン」の骨子が作成されました。

将来の汚水処理施設整備計画を描く際、人口の地域的偏在が加速することから、浄化槽は、個別分散型汚水処理施設として、家屋の減少などの状況変化に十分対応可能であるなど、国内外においてその普及が期待されています。今後の将来を見すえるためには貴連合会の活動は必須であり、その果たす役割は今後益々重要になるものと思います。

当教育センターは、今日まで浄化槽に係る様々な課題を十分認識し、微力ながら浄化槽関係唯一の教育機関として、浄化槽関係技術者の養成、技術向上に努めて参りましたが、今後とも浄化槽事業発展のため、一層の努力を致す所存でございますので、皆様方におかれましても引き続きご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、貴連合会と会員の皆様の今後益々のご発展、ご活躍を心からご期待申し上げますとともに、ご参集の皆様方のご健康とご多幸を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

第12回全国大会開催を祝して



一般社団法人 全国浄化槽団体連合会
会長 上山 健治郎

貴連合会「第12回全国大会」の開催を、心からお祝い申し上げます。

11年前、貴連合会は、「相互扶助の精神と互いの経営資源の補完」「知性と良心」「自由闊達な建設的議論」「相互の人格と個性の尊重」「民主的運営」等を基本理念として、新たな船出をされました。

以来、我が国の健全で恵み豊かな生活環境確保と、公衆衛生の向上に大きく貢献してこられました。今年も全国の一般廃棄物処理業者が一堂に会され、新たに「世界に誇る浄化槽 未来へ残そう美しい自然」をテーマに、包括的な環境衛生対策に努めるという強い決意を表明されております。

「水の世紀」21世紀、「水環境の確保は、食糧安保とも並ぶ長期的な国家戦略の一つ」であり、また、「環境保全上も健全な水循環を構築するためには、浄化槽の果たす役割が極めて大きい」ことを考えますと、今大会のテーマもまた誠に時宜を得たものと、深く敬意を表するものであります。

今や全国の汚水処理人口普及率は88%に達しましたが、100%にするには浄化槽なら下水道に比べ1/6の5兆円で済むと言われております。つまりは、下水道との役割分担で浄化槽の整備が促進され、浄化槽比率が高まれば高まるほど、財政支出に余裕が出来、まさに「財政に優しい浄化槽」、「環境に優しく地震に強い浄化槽」であります。

全浄連では、こうした浄化槽の「整備推進の柱」として、かねてより「浄化槽整備区域の拡大」「単独から合併処理浄化槽への速やかな転換」「浄化槽維持管理費に対する公費助成」などを要望してまいりました。加えてこれら浄化槽の普及整備を促進するためには、現在全浄連にて検討中の、官民協働の新しい「浄化槽管理システム」も欠かせないものと考えます。

既に全浄連では、これらの課題を解決して浄化槽整備事業を推進するための具体的な金額を算出し、議員連盟や環境省に要望しておりますが、その実現に向け大きく踏み出したいと存じます。与党となった議員連盟や議員懇話会の先生方のお力を得て、強く要望活動を行なっている決意であります。

末永い日本の繁栄を築くこと、身近な美しい水環境を守ることは、私どもの永遠の責務です。全浄連は、後の世に評価される行動を、今していくことを肝に銘じ、その実現に皆様と共に手を携えて努力してまいりたいと存じます。

最後になりましたが、貴全国環境連と会員の皆様の益々のご発展とご活躍を祈念し、お祝いの言葉と致します。

大会の目的

我々一般廃棄物処理業者は、市町村の自治事務の代行者として、廃棄物処理事業が開始されたときから今日まで、適正な廃棄物処理を通じて、わが国の良質な水環境の確保及び公衆衛生の向上に寄与してきたところである。

しかし、その傍ら下水道の整備が進む中、業界の取り巻く厳しい経営環境は、年々その度合いを強めている。

そのため「合特法」の趣旨を踏まえた転換（支援）業務（補償）の獲得が、今や緊急の課題となっていることはいうまでもない。

我々がこの難局を乗り切るためには、積極的に英知を結集し自らの力で業界の経営基盤の安定を図っていくことが必要である。

我々は、今後も絶え間ないイノベーション（技術革新）で業界の未来は開かれるという信念のもとに、創造性を備えた先進的なリサイクル等の技術開発に努めていくことが強く求められている。

その上で、企業の社会的責任（CSR）の視点から業界全体での思い切った意識改革に取り組み、新たな価値観を追求することが必要である。

また、これまでに類の無い将来的な人口減により困窮が予想される経済状態や社会情勢に直面するに当たり、今後はより一層の効果的で経済性に優れた排水処理構想の検討が図られるであろう。我々は業態を取り巻く環境変化に順応するべく価値観の統一を以って多角的に検討し、未来の自然環境保全に向けた循環型の廃棄物処理技術及び体制の強化継続につなげていく必要に迫られている。

廃棄物処理、水処理に深く携わり環境保全上の重要な役割を担う者として、地域社会において健全で安全安心な水環境を確保するため、業界一丸となって取り組んでいかなければならない。

本大会は「世界に誇る浄化槽 未来へ残そう美しい自然」をテーマに全国の一般廃棄物処理業者が一堂に会し、3R（リデュース、リユース、リサイクル）を積極的に推進し、国・地方及び関係業界が協働して、法の遵守のもとに包括的な環境衛生対策に努め、この国の美しい自然を未来に継承する社会を目指し、実現するための我々の強い決意をここに表明するものである。

講演

[受付] 12時30分～ [時間] 13時30分～15時40分 [場所] 大和東南の間

講演Ⅰ 13:30～14:30



演題

「廃棄物・リサイクル対策について」

講師

環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部

廃棄物対策課長 和田篤也氏

【講師プロフィール】

地球環境局地球温暖化対策課長を経て、平成26年7月に廃棄物対策課長に就任。

講演Ⅱ 14:40～15:40



演題

「生活排水の現状と今後について」

講師

常葉大学社会環境学部 教授 小川浩氏

【講師プロフィール】

東京理科大学理学部化学科卒、静岡県立大学大学院生活健康科学研究科博士後期課程修了、博士（環境科学）、現在、常葉大学社会環境学部教授

主な研究テーマ

- ・小型合併処理浄化槽の開発と実用化に向けた方策
- ・小型合併処理浄化槽の清掃汚泥量に影響を及ぼす因子
- ・し尿処理施設のし尿・浄化槽汚泥搬入量に関する実態と将来予測
- ・污水处理施設の効率的整備に関する経済的評価 など

大会式典

[時 間] 16時00分～17時00分 [場 所] 大和東南の間

1. 物故者に対する黙祷
2. 開会の辞
3. 大会式辞
4. 優良役員・従業員表彰
5. 受賞者代表謝辞
6. 政府に対する要望決議
7. 大会スローガン発表
8. 大会宣言
9. 来賓祝辞
10. 祝電披露
11. 閉会の辞

第12回全国大会 政府に対する要望決議

私達、一般廃棄物処理業者は今日まで、市町村の自治事務の代行者として長年ただひたすらに、廃棄物の適正処理に取り組み、我が国の生活環境の保全及び公衆衛生の向上に重要な役割を果たしてきました。

しかしながら近年、下水道の整備普及による業界の業務は、目に見えて先細りの一途をたどり、経営圧迫による危機感を抱いております。そのため私達は「合特法」に基づいて転換業務（補償）獲得を市町村に要求していくものであります。

そのうえで、経営の安定を維持し、廃棄物の適正処理を全うし循環型の社会づくりの実現を図って参りたいと存じます。つきましては、何卒、下記の事項について特段の措置を講じられますよう切に要望するものであります。

記

- 1 下水道の整備により影響を受ける一般廃棄物処理業者等に対して、安定かつ継続する業務を保障する観点から「合特法」に基づく合理化事業計画の策定を行い、それを実行に移すことにより、転換業務（補償）の獲得またPFI事業による浄化槽市町村整備推進事業の維持管理については「合特法」の趣旨に沿い市町村において適切な対策が講じられるよう指導されたいこと。
- 2 浄化槽の維持管理に係る指定管理者制度の運用については、浄化槽の保守点検及び清掃を適切に実施し、浄化槽の正常な機能が確保されるよう、業者の選定等に関して、地方自治体に対して指導の徹底を図られたいこと。
- 3 災害に強く技術革新の可能性のある浄化槽の分野について、最適な維持管理システムの構築や浄化槽汚泥の活用などの課題に着目し、イノベーション（技術革新）創出を導き出す研究開発を重点的に推進するための措置を講じられたいこと。
- 4 汚水処理施設の整備（下水道、浄化槽、農漁集排、汚泥再生処理センター）については、地方公共団体の財政が逼迫していることから、人口減少を考慮した経済的、効率的な整備が推進されるよう指導されたいこと。
- 5 ディスポーザーの普及に伴い、水質保全の観点から、その排水処理システムの確立及び維持管理については速やかに法体系の整備を図られたいこと。
- 6 一般廃棄物処理計画に基づき一般廃棄物の適正な処理が確保されている場合には、新たな業の許可はいたずらに過当競争等を招き、ひいては適正な処理が困難となるおそれが高いため、既存の適正規模の処理施設や体制を維持するよう地方自治体に対して指導の徹底を図られたいこと。

大会スローガン

1. 下水道整備の進捗に伴う転換業務（補償）獲得
1. 不法・不当な新規許可の絶対反対と委託・許可制度の適正な運用
1. 生活排水対策に優れ災害に強い浄化槽の適正な維持管理の確立・徹底
1. イノベーション（技術革新）による事業の安定的発展と循環型社会づくりを実現するため3R活動の一層の推進
1. 情報収集システムの運用と情報提供の充実強化
1. 組織の充実強化と次世代を担う人材の育成
1. 労働災害ゼロの徹底と福利厚生の実

大会宣言

私達、一般廃棄物処理業者は市町村の自治事務の代行者として、廃棄物処理事業が開始されたときから今日まで、適正な廃棄物処理を通じてわが国の良質な水環境の確保及び公衆衛生の向上に寄与してきたところである。

しかし、その傍ら下水道の整備が進む中、業界を取り巻く厳しい経営環境は年々その度合いを強めている。そのため「合特法」の趣旨を踏まえた転換（支援）業務（補償）の獲得が今や緊急の課題となっていることはいうまでもない。この難局を乗り切るためには、積極的に英知を結集し、自らの力で業界の経営基盤の安定を図っていくことが必要である。

私達は、今後も絶え間ないイノベーション（技術革新）で業界の未来は開かれるという信念のもとに、創造性を備えた先進的なリサイクル等の技術開発に努めていくことが強く求められている。その上で、企業の社会的責任（CSR）の視点から業界全体での思い切った意識改革に取り組み、新たな価値観を追求することが必要である。

また、廃棄物処理、水処理に深く携わり、環境保全上の重要な役割を担う者として、地域社会において安全・安心な水環境を確保するため、業界一丸となって取り組んでいかなければならない。

本大会は「世界に誇る浄化槽 未来へ残そう美しい自然」をテーマに全国の一般廃棄物処理業者が一堂に会し、3R（リデュース、リユース、リサイクル）を積極的に推進し、国・地方及び関係業界が協働して、法の遵守のもとに包括的な環境衛生対策に努め、この国の美しい自然を未来に継承する社会の実現を目指すものである。

さらに私達は、組織拡大を図りながら強固な団結と協調のもと全国環境連の基本理念を実現することを誓うものである。

以上宣言する。

平成26年10月10日

第12回 全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会
全国大会

大会懇親会

[時 間] 17時30分～19時30分 [場 所] 大和の間

1. 開会の辞

2. 主催者挨拶

3. 来賓祝辞

4. 来賓紹介

5. 乾 杯

6. 次回開催担当県挨拶

7. 閉会の辞

ジャズ演奏



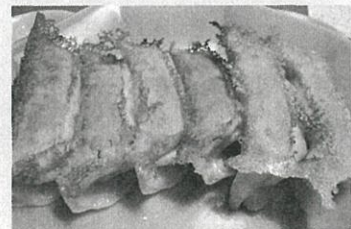
Grace Mahya (グレース・マーヤ) ヴォーカル&ピアノ
3歳からクラシックピアノ、バイオリン、バレエを習い始め、9歳でパリに夏期留学し、ピアニスト、ルセット・デカーブ氏に師事。ドイツ・フライブルグ国立音楽大学にトップの成績で入学。大学院に進学して音楽研究の研鑽を積む傍ら、コンサート活動を続ける。帰国後は、ジャズ・シンガー兼ピアニストとして活躍。独自の世界観漂うヴォーカルと超絶なピアノプレイで、全国各地を席捲している。



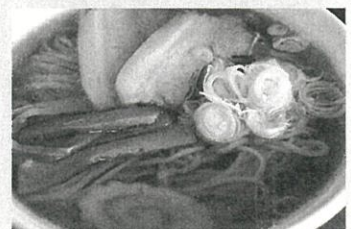
田澤充康 (タザワミツヤス) ベース
4歳からピアノを、13歳からエレキベースを始める。高校卒業後、横浜ジャム音楽学院に入学し、18歳からウッドベースを始める。在学中からプロ活動を始め、現在は宇都宮に在住しながら関東地方中心に、ジャズビッグバンド、ロックバンド、ラテンバンド、Jポップ、演歌、オールディーズバンド等のサポートベーシストとして活躍。ウッドベース、エレキベースの講師もつとめている。



青木孝之 (アオキタカユキ) ドラム
小3よりヤマハポピュラーミュージックスクールにて、ドラムを習い始める。中学、高校と吹奏楽部に所属。パーカッション全般に触れる。また、中学から一般ビッグバンドのドラマーとして活躍。専門学校時代には、故日野元彦、本田珠也氏に師事。現在は、県内外のライブ活動のほか、後進の指導にもあたっている。地元新聞で「綺麗で華のある音」と称された、マルチドラマーである。



昭和33年創業の餃子専門店
宇都宮みんな



佐野手もみラーメン
ふくや



平成26年度
第12回 **全国環境連全国大会**

「世界に誇る浄化槽 未来へ残そう美しい自然」



小田代原の責婦人



日光東照宮(陽明門)

栃木県環境整備事業協同組合

〒320-0845 栃木県宇都宮市明保野町 3-16

TEL 028-614-7929 FAX 028-614-2343